

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 5年 1月 13日(金)

その1 通算 294号

◇ 「挑んで はげむ」

新年 あけまして おめでとうございます。
本年も よろしくお願ひいたします。



来賓玄関の伊勢神宮のしめ縄(いただきもの)



少し長めの冬休みが明け、いよいよ「締めくくりの3学期」のはじまり。始業式での話を聞く児童の整った姿勢に、令和5年に臨む新たな決意、そしてやる気に満ち心意気がうかがえた。

さて、前号の「常なる磐」でお伝えしたように、令和4年度を締めくくる3学期の「本校が目指す指針の一字」は【挑】。(※これについての詳細は次号に掲載)これに伴い、校訓「求めて はげむ」とともに、年訓「挑んで はげむ」を掲げた。そこで、子供たちが「挑んで励める 土台づくり」として3学期に試行的に行う(※継続の有無は新年度最初に決定する)のが、【宿題のない日】の設定である。

ずっと「あった」ものを「なくす」というのは「マイナス的な後退」のイメージが湧きがちであるが、負のベクトルの意図はない。あったものを「なくす」ことで生じた時間を【自分で考えて有効に使う】という、むしろプラス思考での試みであると、保護者の皆様にはご理解いただきたい。

試みの後押しに、2学期末の保護者会の際に保護者の皆様にご回答いただいた「子供の家庭での過ごし方アンケート」の回答内容も参考にさせていただいた。

「お稽古事」「習い事」をしている児童の割合が半数を超え、中には、係る時間が数時間にもおよぶ実態をつかむことができた。毎日の宿題に要する時間は驚くほどではないものの、子供にとっては、「お稽古事」「習い事」をしていても宿題の存在が頭にちらつくこともあるであろう。これが、【挑み】の妨げともなり得る。

「宿題のない日」は、週単位で見れば、たったの一日。

小さなことではあるが、

『今日は宿題がないから、サッカーに全力で集中できる』

『今日は宿題がないから、習い事が終わっても、ピアノを弾いてみよう』

『今日は宿題がないから、これまでに習ったことを復習してみよう』

など、プラスにつながる可能性もある。

習い事をしていない児童にとっても同様だ。

『今日は宿題がないけど、毎日勉強する時間は決まっているから、自分で考えて勉強してみよう』

『今日は宿題がないから、その分いつも以上に学校の授業に集中しよう』

これらの考えをもち、行動に結びつけることこそ、

【挑んで はげむ】 であり、 【求めて はげむ】 なのである。

つまり、【自分で考え、判断して、行動する】 = 「自分の心を自分で鍛える」

ことで、知らず知らずのうちに見えない大きな力を備えることになる。

実体験を通し、さらに継続して身に付けた力は本物だ。だからこそ「生きる力」となって様々な場面で生きてくるであろう。

とは言え、全く心配がないでもない。

「宿題」という強制的な仕向けがあるから取り組まざるを得ないわけで、強制的な「しほり」が取り払われてなお自分をコントロールするのは、大人でも難しい。

そこで鍵となるのが、担任の「ちょっとしたはたらきかけ」である。

今回の試みに際し、担任の先生にお願いしたことがある。毎週火曜日の帰りの会に、必ず子供に伝ええほしい一言だ。

『今日は宿題がありません。生まれた時間を大切に使ってください』

これだけである。

保護者の皆様にも、3か月間、ご協力願いたいことがある。

まずは家でお子さんの様子を見守っていただきたい。水曜日は宿題がないから、家でごろごろしていることもある。それでも、子供たちと交わした約束事やルールを破らない限り、そっと見守り続けていただきたい。

そして「子供たちの自主的な行動」が見られた場合、大いに褒めていただきたい。この声掛けが子供の次なる行動を導く最大の原動力と成り得るのは間違いない。

そして、我々教師が絶対にできないことでもある。